

川上川上流部(三枝用水取水口より上流)におけるカワシンジュガイの棲息調査

飛騨自然史学会
代表 近藤 紀巳

はじめに

氷期遺存種のカワシンジュガイは全国的に棲息数が少なく、絶滅が危惧されている種である。飛騨地方でも、すでに絶滅されたと考えられていたが、5年前に高山市内を流れる川上川で確認した。現在確認されている川上川の上流部には、かつて多数カワシンジュガイが棲息していたと推察される。

高山市内では三枝用水取水口から約100mの区間でしかカワシンジュガイの棲息が確認されていない。かつての棲息状況を示す文献を参考にすると、三枝用水取水口から上流の川上川上流部にはカワシンジュガイが棲息している可能性が高いと考えられ、川上川上流部の清見村役場の新築時にも、カワシンジュガイの確認がされた。その確認後は放置状態であり、棲息も不明である。

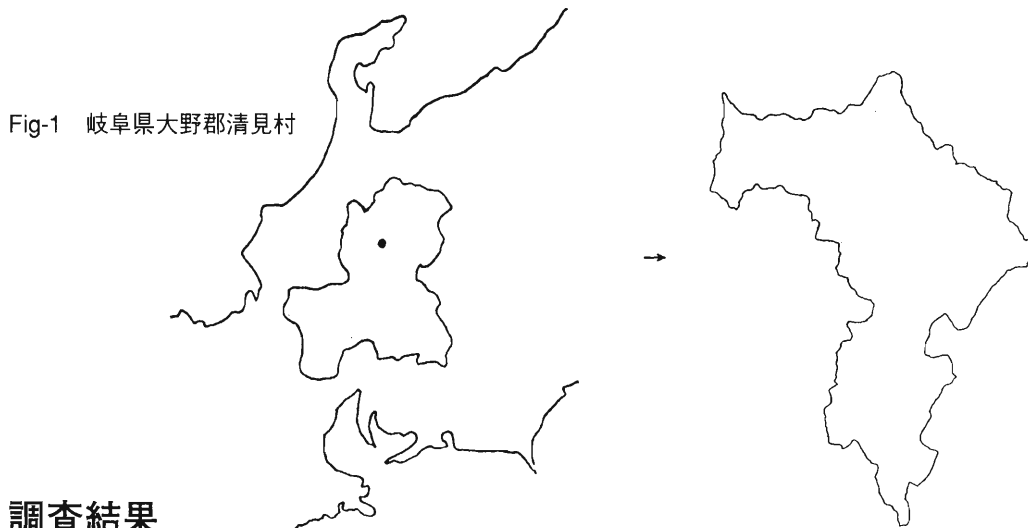
今回は、三枝用水取水口から上流の川上川上流部にポイントを絞り込んだの棲息調査を行なった。

調査方法

カワシンジュガイが多く分布する北海道や東北地方では川の本流に棲息しているが、飛騨地方では用水路に多く棲息しているため、三枝用水取水口から上流の川上川上流部の用水路を中心に調査した。

調査地点

以下に調査地点の概略をFig-1に示した。



調査結果

岐阜県大野郡清見村藤瀬の神明神社の裏手を流れる幅1 m弱の用水路長さ50m区間で、100個体近くのカワシンジュガイの棲息を確認した。Fig-2に神社付近の写真を、Fig-3に神明神社裏の写真を示した。また、棲息していたカワシンジュガイ20個体をランダムに採集し、殻長、殻高を測定した。その結果をTable-1に示した。

Table-1 ランダムに採集したカワシンジュガイの殻長、殻高

No	殻長	殻高	No	殻長	殻高
1	6.82	3.97	11	9.86	5.33
2	6.71	3.88	12	9.88	5.40
3	6.90	4.04	13	9.88	5.41
4	8.02	4.51	14	9.91	5.54
5	8.15	4.53	15	9.92	5.51
6	8.16	4.64	16	10.66	5.94
7	9.25	5.07	17	10.70	5.88
8	9.43	5.29	18	10.71	5.98
9	9.69	5.35	19	10.79	5.91
10	9.78	5.53	20	10.93	5.98

Fig-4に神明神社裏の用水路で確認したカワシンジュガイを示した

清見村藤瀬の神明神社の用水路の上・下流部を探した。その続きの下流部の用水路では砂利の溜った部分で5個体のカワシンジュガイを確認した。Fig-5にその用水路の全景を示した。また、道路を挟んだ南の山側から流れる用水路でもカワシンジュガイの棲息は確認できなかった。しかし、Fig-6に示すような狭く小さな水路の溜りの部分2カ所で、カワシンジュガイ各1個体を確認した。場所は同じ清見村の用水路である。

考察

前回助成を頂き、調査を行った時、岐阜県大野郡清見村も調査対象にしたが、カワシンジュガイは確認できなかった。その後、聞き取り調査等を引き続き行ったところ、時間感覚は不明だが、カワシンジュガイらしい貝を見たという話を幾人からも聞いた。そこで、土砂の溜っている用水路を中心に調査を行ったところ、4地点でカワシンジュガイが確認できた。しかし、清見村藤瀬の神明神社裏の用水路は繁殖も可能と考えられたが、ほかの2ヶ所の狭く小さな水路の溜りの部分は本流などから流れてきた個体が確認されたものと推察された。

2ヶ所の狭く小さな水路の溜りの部分で確認された2個体のカワシンジュガイとその下流部の用水路内で確認された5個体のカワシンジュガイはそのままでは繁殖が不可能なため、約100個体が確認された清見村藤瀬の神明神社裏の用水路に移した。

また確認され、ランダムにサンプリングし測定した個体の殻長が9 cmから10 cmのものが多かったことは、若い個体が少なくその用水路内で繁殖しているか疑問が持たれる。同時に調査している時には、寄生種であるヤマメやアマゴナドノサケ科の魚は見当たらなかった。

今後は寄生種の確認、カワシンジュガイの生長なども調査する必要があると考えられた。

ほかに、岐阜県、清見村にカワシンジュガイの保護を働き掛ける必要があると考えられた。

謝辞

岐阜県大野郡清見村でカワシンジュガイを確認できたことに、助成を頂いたタカラハーモニストファンドに感謝する。京都大学名誉教授四手井綱英先生には、研究の機会を与えて頂き深謝する。

文献

- 近藤高貴 1995 カワシンジュガイは氷期遺存種？ 日本貝類学会「ちりぼたん」Vol.25 No.3
近藤紀巳 1995 カワシンジュガイ調査 飛騨自然史学会誌 Vol.6
近藤紀巳 飛騨おもしろ博物館 中日新聞社
渡部忠重 1988 氷期遺存種カワシンジュガイ 日本の生物
吉岡小夜子 飛騨おもしろ博物館 中日新聞社

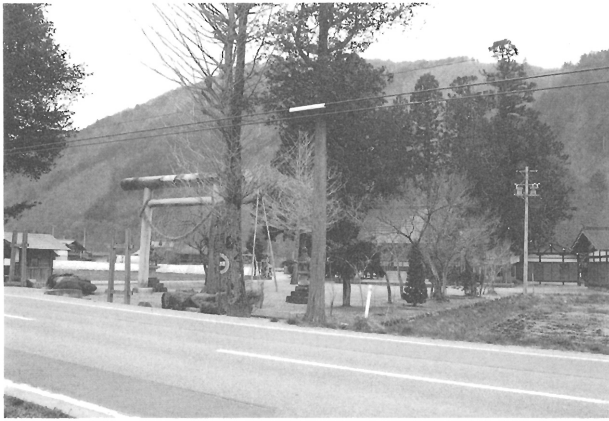


Fig-2 神明神社



-4 カワシンジュガイ



Fig-3 神社裏の用水路

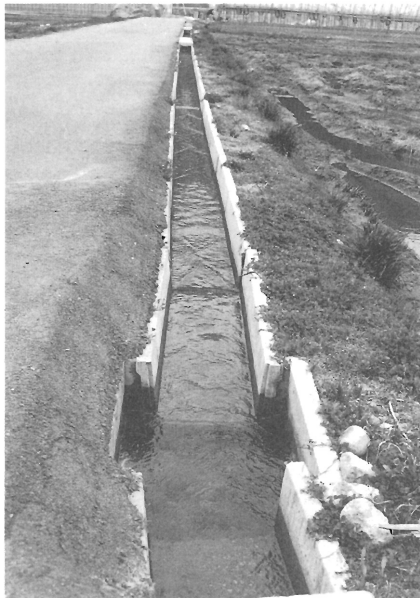


Fig-6 水路の溜りの部分

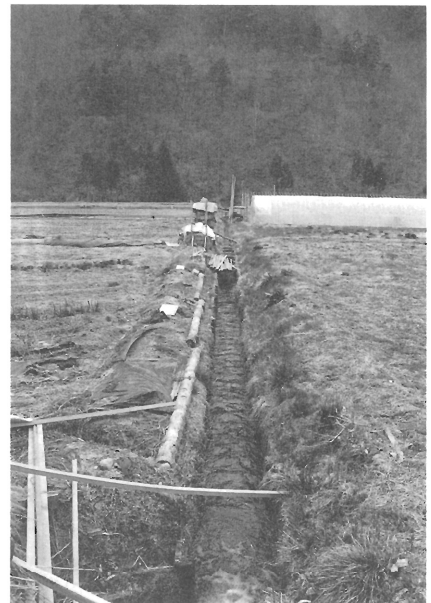


Fig-5 下流部の用水路